

年末に中国、ラオスへ

留学生プログラムで タイ、DPU 大学留学中



人文学部社会科学科 3年 峯 理佳子

「Sawadii kha」～。タイ・バンコク市内のトラキットパンディット大学（DPU）に留学中の人文学部社会科学科 3年の峯理佳子です。2月なのに市内の気温は現在 33℃です。

所属しているのは、IC(international college)。講義は、すべて英語です。教授などの教員は、もちろん、学生も世界中のあらゆる所から集まっています。コマ数自体は少ないのですが、授業時間が 1 コマ 3 時間（180 分）で日本の 2 倍。慣れるまでは、じっと座っているのが最初はとてもつらかったです。

1 つの授業自体にかかる時間数が高いためか、宿題がとても多いです。ほとんどの授業でプレゼンテーションを課されます。私は、元々、このプレゼンが苦手でした。教授やグループの友人らが助けてくれるので、何とかこなしています。



タイの滞在は、残り 2 ヶ月半となりましたが、残りのプレゼンや試験、語学学習をしっかりやっていく積りです。

クリスマスとお正月は DPU 主催の留学生を対象としたバックパックプログラムに参加し、中国とラオスで過ごしました。大学から 6～7 万円の資金を受け取ってチームを組み、予算内で旅行し、独立心やチャレンジ精神を養い、知見を高めるという DPU 独自の素敵なプログラムです。

私のチームは中国人 2 人、カンボジア人 1 人の私の構成。クリスマス伊ブにバンコクから、ベトナム、ラ



オス、ミャンマーと国境が接する中国の雲南省の省都の昆明に向けて出発しました。

到着前は、省都なので水戸と同じくらいの規模なのかと思っていました。行ってみると水戸をはるかに超える人口 600 万人の大都市でした。夜景から中国の経済が、いかに大きいかを身に染みて感じました。

翌日は、寝台列車で、8世紀の古城で有名な麗江へと移動。世界遺産に指定されているだけあって、古い町並みがとてもきれいでした。雲南省はバラの産地だと中国人の友人から教えられ、渡されたのがバラのお饅頭。花を食べたことは生まれてはじめての私なので、一瞬、戸惑いました。食べてみると花感はありませんでしたが、案外すんなりと受け入れられる味でした。ほかにもハイビスカスやバラのジュースなど色々体験しましたが、どれも美味しかったです。



雲南省最南端で、タイ族の住む西双版纳を經由し、国境を越えて、寝台バスで、街中が



これも世界遺産と言われるラオスのルアンパバーンへ。長い間フランスの植民地だったので、街並みが西洋的でした。

もともと、寺院はやはりタイでみられるきらびやかなものでした。その後再び、寝台バスに乗り、首都ビエンチャンへ。治安が必ずしも良いとは言えない山の中をひたすら走り抜けるので、とても危険な感じでしたが、窓から見える満天の星空は、今まで見た中で一番美しく、一晩中寝ずに眺め続けたほどでした。

到着後は、ビエンチャンの観光を短時間楽しみ、バンコクへ戻ってきました。

最後の行程は、バンコクまで20時間座席に座りっぱなし。体力的にはとても疲れましたが、乗客が個性的で面白い人が多かったのも、とても楽しい時間を過ごせました。ただし、トイレのないバスだったためか、最後は少し異臭が漂ってきたのは日本ではなかなかできない体験でした。

冒頭に触れたように、私の留学もわずかとなり残りのわずかな期間で「Sawadii-kha〜 (タイ語でこんにちは)」をタイ文字ですらすらと書けるようになりたいです。



(終)